穂別地域の教育資源を活用した「総合的な探究の時間」の取組

北海道穂別高等学校　学級数３　（校長　岩瀬　　均）

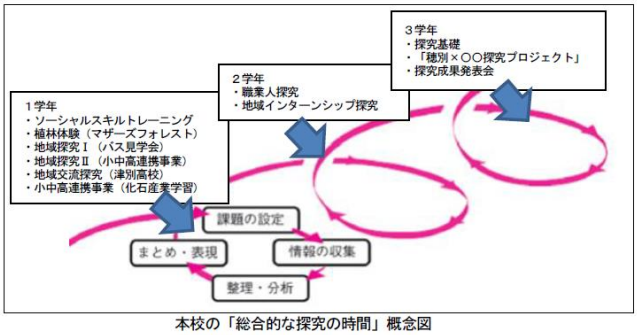
１　実践の趣旨

本校では、「社会の有為な形成者としての資質を養う」を学校教育目標に掲げ教育活動を行っている。生徒の約半数は、胆振及び石狩管内の中学校の出身であり、むかわ町教育委員会が運営する「穂星寮」に居住し登校している。なお、中学校時代につまずきや挫折を経験している生徒及び教育的支援を必要とする生徒が多く在籍し、生徒の個に応じた手厚い支援が本校教育の基盤となっている。

平成 27 年度から北海道教育委員会の「小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業」における推進指定校となり、地域の小中学校や商工業者等と連携を図り、「地域の特性やよさを理解し、地域を活性化させることの意義について学習すること」や「地域の人材や教育資源を生かした体系的なキャリア教育の推進」を目指した実践に取り組んでいる。また、令和元年度からは、文部科学省委託事業である「北海道高等学校道徳教育推進事業」の指定を受け、学校教育目標の位置付けを体系的な教育活動の中で明確化した上で、生徒の自己有用感の育成に向けた実践に取り組んでいる。

２　実践の概要

本校では、地域行事への参加及び奉仕活動等に加え、従来の「総合的な学習の時間」の取組として地域における体験学習を多く実施してきた。これまでの教育活動を「穂別を学ぶ」という観点から再構成し、３年間における体系的な学びとしたものが、本校の「総合的な探究の時間」である。



本校の「総合的な探究の時間」概念図

⑴　１学年「自分を知り、地域社会を知る」

「ソーシャルスキルトレーニング」は、自分の得手・不得手を理解し、人との距離の取り方・話し方を学び、人前で話ができるようになることを目指している。また、「地域探究Ⅰ」は、穂別地区の産業の基礎を学習した上で、主産業である林業や化石産業等の事業所を訪問し、体験活動を行っている。これらの活動について、遠隔システムを利用して津別高校と活動内容を共有する取組も行っている。

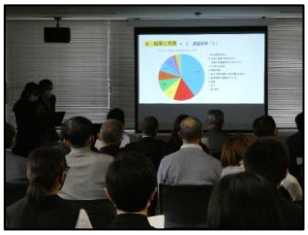
化石発掘体験の様子

⑵　２学年「自分と社会の関わりを考える」

「地域インターンシップ探究」は、１学年で学んだ地域産業について、就労体験することにより、地域社会と自分の接点を発見し、地域の方との関わりの中での視野の拡大を目指している。

⑶　３学年「自分の進路を拓く」

「穂別×○○（かけるまるまる）探究プロジェクト」は、１、２学年で学んだ内容を基に研究機関や地域の商工業者、むかわ町教育委員会と連携し、穂別発展の方策を探究している。10 月に町民センターにおいて、一般の町民の方を招き、３年生全員が一人一人発表を行っている。（研究テーマ：「穂別×アニメ」、「穂別×音楽」、「穂別×化石」、「穂別×メロン」など）



探究成果発表会の様子

３　今後の取組に向けて（○成果　●課題）

○　「探究成果発表会」を終えた３年生から「自分からやりたいことを決め、地域の人に関わってコミュニケーションを取ることができた」、「自分から行動して探究活動を行うことができたことが一番の成果だと思う」などの感想が述べられていた。このことからも、穂別を題材として、「自分で決め・自分で考え・自分で動く」という姿勢を、生徒自ら身に付けることができたと考えられる。この探究活動を今後も継続していきたい。

●　探究活動を進める中で、関係機関等との調整や生徒への指導において、特定の教員に対し業務負担が大きくなっていることが課題であった。今後は、特に３学年の探究活動を全教員で指導する体制を構築し、特定の教員への業務負担を軽減する必要がある。